

～突撃★ドメーヌ最新情報！！～

◆VCN°27 ナナ・ヴァン

生産地方：ラングドック

新着ワイン 5 種類♪

VdF ペティアン・ナチュレル ソー・ワット！2020（白泡）

2020 年はナタリーの自信作！前年はテレブラン 100%だったが、今回はクレレットが 50%アッサンブラージュされている。ナタリー曰く、クレレットはテレブランよりもジュースがみずみずしく酸があるため、テレブラン特有の苦みが抑えられ、味わいにキレが生まれるとのこと。ガス圧 6 気圧と高いが、泡がワインにきれいに溶け込んでいることもあり、開けても噴きこぼれることなく、シャンパーニュのような繊細で上品な泡立ちがグラスの中で長く続く！ロワールでのワイン造りの経験から、ワインを上品に仕上げるセンスに長けているナタリー。今回のソー・ワットは、ブラインドでは南の泡とは思えないキメ細やかな泡立ち、酸と旨味の塩梅、アルコールのバランス、全てが冴えきっている！北のワインを熟知しているナタリーならではの技アリなペティアンだ！

VdF ペティアン・ナチュレル バブリー！2020（ロゼ泡）

2020 年はナタリーの自信作！この年は日照りだったため 30hL/ha とサンソーとしては収量が少ないが、ナタリー曰く、品質的には酸と糖のバランスが取れた最高のブドウを収穫できたとのこと。また今回、2020 年のアドバンテージとして、1 次発酵も 2 次発酵も発酵がゆっくりと安定していたため、まるで 3 年以上瓶熟したシャンパーニュのような質の高い泡が実現できた。ガス圧は 5 気圧とシャンパーニュ並みにあり、確かに泡立ちは絹のように繊細で、きれいに溶け込んでいる！味わ的には、もぎたてイチゴのようなフレッシュ感と酸のキレが爽やか！色合いも淡いピンクで美しく、泡と酸、エキスの旨味のバランスが超絶妙で、彼女が自信作というの也十分うなずける！ソー・ワット同様に、北のワインを熟知しているナタリーのセンスがキラリと光るペティアンだ！

VdF スゼット！2021（白）

今までの So Nath！（ソー・ナット）が Suzette！（スゼット）に名称変更され 2 年ぶりのリリース♪元々ソー・ナット（ナタリーらしい）という名前は、友人から勧められた勢いで付けたものだったが、今回名称変更に至ったそうだ。ちなみに、スゼットは昔のフランス人の女性名。ナタリー自身発音的に落ち着く名前、スゼットのブドウ品種であるテレブラン（Terret：別称テレット）とクレレットがスゼットの韻を踏んでいることからこの名前に決めたとのこと。2021 年は、南には珍しい、夏が涼しくブドウに酸が残った年だった。出来上がったワインは清涼感があり、まるで北のミュスカデを彷彿させるようなキレのあるシャープな酸がある！アルコール度数も 11%と低くスレンダーだが、さすが 50 年を超えるヴィエーユ・ヴィーニュのブドウだけあり、みずみずしさの中に旨味エキ스가しっかりと溶け込んでいる！南でこういう涼しいワインをさりげなく仕上げるナタリーは、やはり醸造センスが群を抜いて飛びぬけていると思う！

VdF ブディ・ブディ！2021（赤）

今回新しくリリースする北のピノ・ドニスと南のサンソーをアッサンブラージュしたロゼ。当初はパタポン赤にアッサンブラージュする予定だった若木のピノ・ドニス、大規模な霜の被害に加えて日照量不足により思うように熟さず、ナタリー自身も収穫前からどのように仕込むか頭を抱えていた。奇しくもこの年、南の方でバブリーにする予定のサンソーが勢い余って完全発酵を終えロゼの辛口に仕上がり、これもどのようにリリースしようか思いあぐねていた。そこで、ふと「この 2 つの品種を合わせてロゼにすると、どのような味わいの化学反応が起こるだろう？」と興味を持ったナタリーは、急きょ若木のピノ・ドニスを赤ではなくロゼに仕上げる発想の転換を図った。以前からサンソーを「南のピノ・ドニス」と呼び、味わいに類似性を感じていたナタリー。アッサンブラージュした結果は彼女の予想通り大成功だった！「2021 年が日照量不足だったため、ピノ・ドニス単

独だと酸と青さが目立つが、サンソーを加えることにより果実味にジューシーさが増し、まるで初期のパタポンを彷彿させるような魅力的なワインに仕上がった！」と彼女は絶賛する。確かに、摘み立てのイチゴやフランボワーズのジューシーなエキスを飲んでいるような、ロゼというよりは薄ウマな赤に近いチャーミングな味わいがあり、飲んでいて楽しい！ちなみに、ワイン名はピノ・ドニスとサンソーの味わいの的に近い関係を英語の Buddy-Buddy（バディ・バディ：親しい間柄）で表現している。

VdF コンジョー2020（赤）

白のマセラシオンをつくろうとしたところ、誤って収穫者がサンソーを加えてしまった偶然のアクシデントから生まれた Konjo（混醸）。基本的に全てのブドウを収量に合わせて相対的に混ぜ合わせるのがコンセプトだが、2020 年は春の遅霜の被害を辛うじて免れたカリニャンが 40%とベースになっている。醸造は、カリニャンだけを除梗し、それ以外の全房のブドウに挟み入れ、ミルフィーユ状に重ね合わせマセラシオンを行っている。出来上がったワインは、前年同様にピュアで艶やかだが、カリニャンの比率が多い分果実味にコクがありスパイシー！また、アルコール度数 12%とは思えない凝縮した旨味があり、さらに全体を支える酸が長熟を予感させる！今飲むのであればぜひジビエと♪そうでなければ、もうあと数年熟成させて、若いタンニンがこなれ隠れている色気が出始めた頃に飲むのも乙！

ミレジム情報 当主ナタリー・ゴビシェールのコメント

2020 年は、ブドウが早熟で品質に恵まれた年。冬のスタートは暖冬で雨が多かった。3 月の終わりに寒波が降り、サンソーが一部霜に当たったが、元々の房の数が多かったのであまり痛手にはならなかった。4 月に入ると気温が上がり、5 月には 30 度を超す真夏日のような日もあり、ブドウは一気に成長のスピードを上げた。開花はとても順調に終わり、ブドウの成長ペースは例年よりも早かった。夏は、2019 年のような猛暑も日照りもなく比較的気温は安定していた。収穫前に適度な雨が降り、最終的に果汁が多く酸の乗った高品質なブドウを収穫することができた！

2021 年は、歴史的な春の遅霜の被害があったにもかかわらず辛うじて収量が確保できたミラクルな年。冬のスタートは例年並みの寒さだったが、雨が少なかった。春の発芽は順調だったが、ちょうど双葉が出始める 4 月 7 日、8 日の未明に気温がマイナス 5℃まで下がる 1656 年以来の大寒波がラングドック全域を襲った。この霜により最初の主芽はほぼ全滅…。幸い、その後に発芽した副芽にブドウの房が多く付いていたので、霜により収量が大幅に減るということではなかった。（一方、ロワールのピノ・ドニスは霜の被害により 50%の減収だった）その後、雨の多い不安定な天候が続く、ミルデューやオイディウムなどの猛威により 10%~20%ほど収量が減ったが、最終的にどのブドウも 1 ヘクタール当たり 30hL 前後の収量を確保することができた。ブドウの品質的には、夏が涼しかったおかげで酸が乗り、久しぶりにアルコール度数低めのみずみずしいブドウが収穫できた！

「ヨシ」のつ・ぶ・や・き

これは今年 5 月にブリゾーを訪問した時の写真。（写真①）写真に見えるのは、新しく購入したヤマハの 4 輪バギーだ。今年購入したばかりの新品で、畑までの移動や草刈などトラクターよりも機動性が良い上に軽量で大型バンにも載せられることから、南と北に自由に運べるメリットがあり、それぞれの畑で、仕事効率をあげることを期待して購入したそうだ。



（写真①）畑の仕事効率改善のため購入した 4 輪バギー



(写真②) エンジン付草刈り機をバギーの後ろに装着

バギーの後ろに装着しているのはこの草刈り機。(写真②) 上部に黒いエンジンが付いている。通常トラクターに装着する草刈り機は、トラクターの駆動を利用して草刈り機の刃を回すのだが、バギーにはトラクターのような駆動装置がないため、このような独自にエンジンの付いた草刈り機が必要となる。草刈り機のエンジンの調節は、バギーと連動できる接続式の油圧式制御装置がオプションであり、それを使って刃をニュートラルに入れたり速度を調節できるのだが、今回その油圧式制御装置を接続するジョイントがどうやら壊れてしまったようで、そのせいで作業が滞ってしまっていた…。

あの温和なナタリーも作業が進まないストレスでピリピリしている…。トラブル中とも知らずにノー天気訪問した私は、その場の空気がとても気まずく今回は試飲どころではなかった。「先ほど業者に問い合わせたが、コロナとウクライナ戦争の影響が原因で、今ジョイントの品不足が続いていて、調達までに半年以上かかりそうだと言われた。たかがジョイントひとつに半年以上も待たなければならないなんて信じられる!？」とぼやくナタリー。

確かに、昨今このコロナとウクライナの影響で、多くのモノが品不足に陥っていることを実感する。ビニョロンと言えば、ボトル、コルク、キャップシールなど瓶詰めに必要なモノの不足に加えて価格の急高騰に頭を悩ませている。ナタリーが言うには、ボトルは去年よりも価格が2~3割上がり、キャップシールは超品不足で注文から半年以上待たなければならない状態にあるようだ。彼女も瓶詰めに関わる全てのモノの不足は認識していたが、まさか草刈り機の部品にまで品不足が及んでいたとは予想もしていなかったようだ。

結局、草刈り機の代わりにパートナーのエミールがしばらく使わずに放置していたルーロファッカをトラクターに装着し作業を行うことになった。(写真③) ちなみにルーロファッカとは重量のあるローラーで、雑草を刈らずに根元から押し曲げ、草刈りと同じ効果を得ることができる農具だ。除草でも雑草をただ押し倒すだけなので、草刈りよりも土壌の保湿効果があり、また雑草が絨毯代わりとなるため雨の日に畑がぬかるまないというメリットがあるが、一方で、小回りが利かないため、畝の間隔が狭い畑では作業に時間がかかるというデメリットがある。ロワールとラングドックに畑を持つ彼らは、北と南を行き来しながら常に時間のない中で効率良く仕事を行なわなければならない、最近作業に時間のかかるトラクターを止めてバギーでの作業に切り替えただけだった。「作業効率を上げようと最新の機器を導入したのに部品ひとつ足りないだけで使用することができず、さらに部品調達に半年もかかるなんて、これでは大枚をはたいて投資した意味が全くない…」とぼやくナタリー。結局、今回の訪問は彼女のぼやきで始まりぼやきで終わった。見ていていつも感じるが、ビニョロンは本当に苦勞の多い大変な職業で頭が下がる思いだ！



(写真③) 年代物のルーロファッカで急遽代用

(2022.5.30.のドメーヌ突撃訪問より)

※弊社HP「フォト・ギャラリー」より、カラーでサイズの大きい鮮明な写真をぜひご覧くださいませ